

独立行政法人国立国語研究所「病院の言葉」委員会 第3回実務委員会
議事要旨

1. 日時 平成20年3月6日(木) 14:00~17:00
2. 場所 国立国語研究所大会議室
3. 出席者 杉戸委員長, 有森委員, 稲葉委員, 柴田委員, 関根委員, 中山委員,
三浦委員, 矢吹委員, 吉山委員, 徳重委員, 相澤委員, 吉岡委員,
田中委員
4. 会議の概要
 - (1) 「病院の言葉」委員会第2回実務委員会の議事録確認について
 - ・第2回実務委員会の議事録と議事要旨を確認した。
 - (2) 当面のスケジュールについて
 - ・平成20年9月までの活動スケジュール, ならびに当面の作業の流れについて, 確認を行った。
 - (3) 語彙選定について
 - ・実務委員による語彙選定作業の集計結果に基づき, 詳しく取り上げる語の優先候補 66語, 優先ではない候補 60語, 簡潔に取り上げる語の候補 900語余りを決定した。
 - ・医療従事者調査, 国民調査にかける対象語, 100語を検討した。
 - (4) 調査について
 - ・医療従事者調査(二次調査)について, 企画案に基づき議論を行い, 調査票の文言の修正等を行った。
 - ・国民調査について, 企画案に基づき議論を行い, 今後も引き続き検討することとした。
 - (5) 工夫内容の検討について
 - ・工夫内容の検討の作業の進め方について検討し, 記入シート, 参考資料, 作業要領などについて, 細部を詰めた。

5. 討議における主な意見

① 語彙選定について

- ・実務委員による語彙選定作業の結果の集計に基づいて、提案に取り上げる候補の語彙を決定することで、おおむねよい。
- ・集計によって選定された語が極端に少なかった、生活分野、介護分野からは、語を補ってもよいだろう。生活分野では「ADL」を補いたい。また、介護分野では「介護老人保健施設」のような語の構成に無理のある漢語を選ぶのが適切である。

② 調査について

(ア) 医療従事者調査（二次調査）について

- ・語を理解する必要度を問う調査においては、全てについて「大いに必要」と答える人と、一問一問きちんと考えて答える人とがいるので、集計の際はそこにも留意が必要である。
- ・自身の診療について尋ねる形式だが、医師全般に一般化して尋ねてはどうか。自身のことに限定すると、回答に専門領域のバイアスがかかる恐れがある。
- ・自身の診療について聞かれる方が調査として自然であるだろう。自分が使わない言葉についての回答は、信頼性が低いように思う。
- ・診療という表現は、回答者が看護師などの場合に適さない。医療の現場で、仕事で、などと改めたい。

(イ) 国民調査について：

- ・インターネットを利用する高齢者は層が偏る恐れがあり、インターネット調査の実施に当たっては高齢者におけるインターネット普及率に留意が必要である。
- ・高齢者も含めてインターネット調査として良いかどうかは、この提案が、どのくらいの年齢の人にまで言葉に対する理解を求めているのかによるだろう。自身の診療においては、80歳以上の患者の場合は本人ではなく家族に説明するようにしている。
- ・国民調査は6月頃の実施を計画している。まだ時間があるので、引き続き方法論を議論していきたい。

③ 工夫内容の検討について

- ・記入の際に用いる文体は、「(2) 効果的な説明は？」には医師が患者に伝えるときにそのまま使える表現として「ですます体」、他は専門家向けの内容を記入するものなので、

「である体」がよいのではないか。

- ひとつの言葉についてここまで深く考えるのは初の試みである。考えているうちに。用意されている枠組みに収まらないコメントが出てくるように思うので、自由記述の欄が設けてあるとありがたい。
- 「高齢者の場合の説明の仕方（家族も含めて説明した方がよいなど）」「良くない事柄の伝え方」など、ひとつひとつの言葉についてではなく、言葉全般にかかわる、事柄があると思う。そのような情報も書き込む書式が用意してあると良い。
- 「クリニカルパス」を「パス」、「インフォームドコンセント」を「IC」と言うなど、専門家だけで通用する略語はたくさんあるが、患者に対して使うものではないので、提案に含めるかどうかは検討すべきだろう。これらは、コラムなどで触れてもよい。
- マスコミの立場からすると目玉ともいえるべき刺激的な言葉があると記事が書きやすい。そのような観点から、候補にあがっていない語を、後々提案するかもしれない。
- これまでの選定手順では、取りこぼされてしまった言葉もあるだろう。最終的に提案する語の入れ替えは柔軟に行いたいので、作業過程で、取り上げるべき語を思いついたら是非提案してほしい。

以上